



5月号

平成31年4月26日

横浜市立東中田小学校

校長 天野 直美

TEL.802-0500 FAX.801-4089

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/higashinakada/>

見えない時代へ～ひなカリの意味～

校長 天野 直美

春休みにどうしても気持ちの区切りをつけたくて、夫を誘い山梨に日帰りドライブをしました。笛吹市のフルーツパーク公園はモモ、アンズやレンギョウなどの花が満開となり、公園の高台から扇状地の作りがよく見え、堆積した土砂が流れ出す山と山の間あたりに富士山が美しくそびえていました。天気にも恵まれて「気持ちの切り替えができて来てよかった。」と思いながら帰路につき車を走らせていると、「善光寺」の看板を見つけました。善光寺といえば、長野市だと思っておりましたので、御朱印収集をもっぱらの趣味としている私は、つい車を止めて立ち寄りしました。

山門を入ると、とても立派なお寺の建物がありました。「なぜここに善光寺があるのだろう。」と思い、立て看板を読みますと、由来には次のように書かれてありました。武田信玄が川中島の合戦を行うにあたり、長野の善光寺に被害が及ばないよう、長野善光寺と同じように建て、あらかじめ本尊を移したのが山梨の善光寺だそうです。本尊は今長野に帰っていますが、「お前立」といって本尊が秘仏の場合に代わりに配置される仏像が山梨善光寺の本尊になっているそうです。

本堂に入り、御朱印を書いていた間、中を見学しました。まず驚いたのが「鳴龍」です。日光東照宮以外で鳴龍の声を聞いたことがなかったので、うれしくなりました。天井には大きな龍の絵があり、その下に立って一人ひとり手を打って龍の鳴き声を聞くことができました。さらに奥へ進んでいくと「戒壇めぐり」の入口がありました。戒壇めぐりとは、本尊の安置された戒壇の下をめぐり、本尊とつながることでそのご加護を得ようとするものです。私は初めて体験しましたが、前が全く見えません。暗闇の中、壁を伝いながら歩きます。本当に怖かったです。出口に近づいて少しずつ明かりが見えてきた時に、心からほっとしました。やり終えた時、なぜか冒険に挑戦し生還したような気持ちが私の中に生じていました。

今の子どもたちは、これから「先の見えない時代」を生き抜いていかなければなりません。そのために必要な「資質・能力」の育成を柱にして来年度より施行される「新学習指導要領」が発表され、それに基づいて本校では昨年度より「ひなカリ」作成を行ってきました。今年度も「自分づくり」をキーワードに地域の中から学ぶ材を探し、実際に授業を行いながら作成してまいります。授業は「社会科・生活科・総合的な学習の時間」を中心に様々な学びを結合させながら、「自分づくり」に必要な「育つ姿・力」を意識して行います。本校だけではなく、中田中学校、中田小学校、認定こども園宮の台幼稚園、御霊神社保育園、白百合愛児園との連携を行いながらつながりを大切にしていきます。

暗闇は人を不安にさせます。しかし、頼りになるものがあれば、少しずつでも前に進むことができ、暗闇を抜けた時、達成感と自信をもつことができます。先の見えない時代であっても、子どもたちが歩みを止めず前進できるよう、助けとなればと思いながら、ひなカリ作成を進めてまいります。戒壇めぐりの壁をつたっていくと、「心」という字になるそうです。後でこのことを知り「そうだった。」と実感しました。